

シリーズ第25話

生理痛と子宮内膜症

「自分は生理痛がひどい」と思っている女性はたくさんいらっしゃいます。痛みは主観的な感覚なのでなかなか他人には理解してもらえないことが多いのですが、仕事や学業に支障があったり、寝込んでしまったり、痛み止めを飲まないといられないといったことが生理痛のひどさの目安になります。子宮や卵巣に異常がなくても生理痛の重い方もいらっしゃいますが、最近では子宮内膜症による生理痛が増えています。「自分は生理痛がひどい」と思っていたら子宮内膜症であったというケースが多いのです。

子宮内膜は子宮内腔の表面にあるものですが、そこ以外、たとえば子宮の筋肉の間や卵巣の間などで内膜の細胞が増殖するものが子宮内膜症です。そうなる子宮が大きくなったり、卵巣が腫れたりして生理痛や不妊症の原因になります。さらに子宮内膜症の癌化の問題もあります。子宮内膜症は良性の疾患ですが、内膜症があるとそこが癌化して卵巣癌などのリスクが高まるので注意が必要です。子宮内膜症は、晩婚化や少子化による出産回数の減少などに伴い、女性の生理の回数が増える傾向にあることがその増加の原因の一つと言われています。

子宮内膜症を治せば、生理痛で悩む女性も減るわけですが、治療はなかなか一筋縄ではいきません。治療法のひとつは手術です。卵巣を両側とも手術で摘出してしまえば、女性ホルモンも出なくなり内膜症も治るわけですが、子宮内膜症は生理のある若い方の病気ですので、卵巣を全部取り閉経した人と同じにするわけにはいきません。そこで、卵巣の内膜症部分は摘出して正常部分は残すという手術を行うのですが、そうすると女性ホルモンが出て、内膜症が再発することになります。閉経するか再発するか、どちらにしてもジレンマに陥ることになります。手術以外の治療法としては薬があります。主に注射ですが、それによって閉経した人と同じく女性ホルモンのない状態にする治療法です。これを偽閉経療法といいます。内膜症組織は女性ホルモンによって増殖し、女性ホルモンがなくなると委縮して



新城市民病院 婦人科
診療部長 出向洋人

くるので。ただ、若い女性をずっと閉経したままにしておくことはできません。更年期障害や骨粗鬆症があらわれることがあるので、この治療は半年間のみ行われます。半年後に治療が終了して生理が再開するとまた子宮内膜症が再発することが多いのです。また、注射が経済的に高価であるという欠点もあります。

もうひとつの方法にいわゆるピルがあります。以前からピルを服用していると生理痛が軽くなってきたことが知られていました。子宮内膜症があつて生理痛がひどく、子どもも当分は希望しない方にはまさにうってつけの薬です。副作用も一般に心配されているようなものはほとんどなく、長期にわたって服用できます。経済的にも比較的安価です。

生理痛でお困りの方は、一度ピルを試してみてはいかがでしょうか。

